

「IR」って なんなん？

梅田に行った折に、グランフロント大阪で開催されていた写真の「IR 展」を覗いてみた。さぞ一杯かと思いきや、案内スタッフの方が多くて、なんだか戸惑ってしまった。

展示といっても見るものもなく、立ち去ろうとしたら、スタッフが「IR はカジノではないです」と説明してくれた。こちらから質問したわけでもないのに、どうして IR とカジノの関係を否定するのかと考えながら、会場をあとにした。



展示会でもらった綺麗なパンフレットには、次のように書かれていた。—MGM リゾート・インターナショナルは「統合型リゾート/IR=Integrated Resort」を開発・運営するグローバル・エンターテインメント企業です。大規模ホテルに併設された国際会議場・展示場、ショッピングモール、レストランを含む複合施設に加え、スタジアムや野外イベント会場などの大型エンターテインメント施設とカジノを総合的に運営し、他では味わえないリゾート体験を提供しています。



最後の写真は「MGMが考える関西での統合型リゾート 2019年5月時点イメージ図」。夢洲に視察に行ったとき、IR 予定地近くに水辺があった。鳥が飛び立ち、生物多様性のホットスポットのような場所だった。その水辺の景観を取り込んで、イメージしたのだろうか。こんな自然とかけ離れた景色なんか見たくない。

ところで、今年2月に公表された「大阪 IR 基本構想（案）」大阪府・大阪市は、大阪 IR の基本コンセプトを「世界最高水準の成長型 IR」と明記する。想定事業モデルとして、投資規模 9300 億円、総延床面積 100 万㎡（国際会議場：1 万 2000 人対応、展示場：10 万㎡、宿泊施設：3000 室など）、年間来場者数 1500 万人、年間延利用者数 2480 万人、年間売上 4800 億円としている。

注目したいのは、IR のなかでカジノが占める位置である。年間延利用者数の内訳として、ノンゲーミング施設 1890 万人、ゲーミング施設 590 万人、年間売上としてノンゲーミング売上 1000 億円、ゲーミング売上（GGR）3800 億円、うち外国人 2200 億円、日本人 1600 億円と明記している。GGR(カジノ行為粗収益)…掛け金総額－顧客への払戻金。年間売上の 79.2%がカジノ行為粗収益なのである。大阪 IR の経済的な実態がカジノであることは、この数字からも明らかだ。IR はカジノなのである。

(2019年5月23日)